

ワクチンへの信頼、世界では、そして日本ではどうなってる？大規模調査から見る「ためらい」の背景

11/3 忽那賢志 感染症専門医



1. はじめに：「ワクチンをためらう気持ち」は世界的な課題

「ワクチンへのためらい（vaccine hesitancy）」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは、ワクチンで防げる病気があるにもかかわらず、接種をためらったり、拒否したりする気持ちや行動のことです。この問題は近年、世界中で深刻化しており、その結果、先進国でも麻疹（はしか）の流行が再燃するなど、具体的な健康被害につながっています。事態を重く見たWHO（世界保健機関）は、2019年に「世界の健康をおびやかす10の脅威」の一つとして、この「ワクチンへのためらい」を挙げました。

では、世界の人々はワクチンをどのくらい信頼しているのでしょうか？この記事では、2015年から2019年にかけて世界149カ国、約28万4000人を対象に行われた、ワクチンへの信頼に関する大規模な調査研究の結果を解説します。

2. 「ワクチンの信頼」ってどういうこと？調査が測った3つのポイント

この調査では、人々がワクチンをどれくらい信頼しているかを客観的に測るために、「ワクチン信頼度指数（Vaccine Confidence Index, VCI）」という調査ツールが用いられました。これは主に、以下の3つのシンプルな質問で構成されています。

- ・ ワクチンは安全だと思うか
- ・ ワクチンは子どもにとって重要だと思うか
- ・ ワクチンは効果があると思うか

これらの質問に対する人々の回答を分析することで、国ごとの信頼度の傾向やその変化が明らかにされました。

3. 世界のワクチン信頼度マップ：国によってこんなに違う！

調査の結果、ワクチンへの信頼度は国や地域によって大きく異なることが分かりました。また、同じ国でも時期によって信頼度が大きく変動するケースも見られました。

3.1. 信頼が大きく低下した国々：何が起きたのか？

2015年から2019年にかけて、特にワクチンへの信頼度が大きく低下した国として、フィリピンとインドネシアの事例が挙げられます。

- ・ **フィリピン：**2017年、 Dengue熱ワクチン（デングワクチン）の安全性に関する懸念が国内で大きく報じられました。この出来事をきっかけに、ワクチン全般への信頼が急落。その影響は劇的で、2015年後半にはワクチン信頼度で世界トップ10に入っていたフィリピンは、2019年には70位以下にまで転落しました。この信頼の低下は、はしかやポリオといった他の重要な定期接種ワクチンの接種率にも影響を及ぼしたと見られています。
- ・ **インドネシア：**MMR（はしか、おたふくかぜ、風しん）ワクチンに含まれる成分について、一部の宗教指導者から「イスラム教の教えに反するものが含まれているのではないか」という懸念が示されました。このことが、人々の信頼を低下させる一因となったと考えられています。

3.2. 日本の状況：世界で最も信頼度が低いレベル

残念ながら、この調査では、日本はワクチンへの信頼度が世界で最も低い国の一であることが示されました。特に2015年の調査では、「ワクチンは安全だと思うか」という質問に「強くそう思う」と答えた人の割合は、フランスやモンゴルと並んで最も低いレベルでした。

この背景には、2013年から始まったHPVワクチン（子宮頸がんワクチン）の安全性に関する社会的な議論と、その後に国が積極的な接種推奨を中止した出来事が関連していると考えられます。この信頼低下がもたらした影響は甚大で、HPVワクチンの接種率は、1994～98年生まれの世代では約70%だったのに対し、2000年生まれの世代では0.6%にまで激減しました。

3.3. 信頼が改善した国々もある

一方で、ワクチンへの信頼度が改善した国もあります。例えば、長年にわたり信頼度が低いことで知られていたフランスをはじめ、フィンランド、アイルランド、イタリアといつたいくつつかのヨーロッパの国々では、信頼が回復する兆しが見られました。

ただし、状況は常に変化します。ポーランドのように、調査期間の全体で見ると信頼度は改善したもの、2018年以降に低下が見られる国もありました。これは、組織化された反ワクチン運動の影響が強まっていることが背景にあると指摘されています。

4. 人々が「子どもにワクチンを接種する」と決める要因は？

この調査では、親が「自分の子どもにワクチンを接種させる」という決断に至るには、どのような要因が関係しているのかも分析されました。その結果、特に強い関連が見られたのは以下の点でした。

- ・ 最も強い関連があったのは「ワクチンは重要だ」という意識
- ・ ワクチンの安全性や有効性への信頼よりも、「子どもにとって重要である」という認識が、実際の接種行動に最も強く結びついていました。
- ・ 医療従事者（医師や看護師）を信頼していること
- ・ 家族や友人よりも、医師や看護師からの医療アドバイスを信頼している人の方が、子どもにワクチンを接種させる傾向が強く見られました。
- ・ 科学教育を受けた年数が長いこと

- ・科学に関する教育をより高いレベルまで受けている人ほど、接種率が高い傾向が見られました。
- ・多くの国で、男性よりも女性の方が子どもにワクチンを接種させたと回答する割合が高い傾向がありました。

5. まとめ：信頼を守り、育てるために大切なこと

この大規模な調査から、私たちはワクチンへの信頼についていくつかの重要なことを学ぶことができます。

1. ワクチンへの信頼は世界中で一様ではなく、国や時期によって大きく変動します。
2. 特定の出来事（ワクチンの安全性に関する報道や社会的な議論など）が、人々の信頼に短期間で大きな影響を与えることがあります。
3. ワクチン接種を進める上では、医療従事者への信頼や、ワクチンそのものの「重要性」への深い理解が非常に大切です。

この研究が示す最も重要なメッセージは、「人々の信頼度がどのように変化しているかを継続的に把握し、その変化に応じて信頼を築くための対策を迅速に行うことの重要性」です。ワクチンの信頼は、一度失うと取り戻すのが難しい公衆衛生の「インフラ」です。この研究は、そのインフラをいかに注意深く監視し、科学的情報提供を通じて守り育てていくべきかを、私たち全員に問いかけています。

YouTubeチャンネル：くつ王アカデミア「ワクチン信頼度の世界地図：日本はなぜ低い？」



<https://www.youtube.com/watch?v=5VTJaijc18Y>